
第5回米原市総合計画審議会

日 時：平成24年2月22日（水）

午後6時30分～午後8時

場 所：米原市役所米原庁舎2A会議室

■出席者（敬称略）

1号委員：今川晃・井上芳恵

2号委員：相宗久夫・細田敏雄・車戸彬邦

3号委員：大木康司・世一辰男・大澤勉・宮部道雄・濱川祐次・北村きの・居林重磨
・川崎善徳・鹿取和幸・大林文彦・池田博・丸本愛子・舟橋麻里

■欠席者（敬称略）

3号委員：森定造・北村きよみ

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - I. パブリックコメントに寄せられた意見と対応
総合計画後期基本計画（案）について
 - II. 答申書（案）について
4. その他
5. 閉会

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

- I. パブリックコメントに寄せられた意見と対応
総合計画後期基本計画（案）について

会 長：事務局から進め方の説明をお願いします。

事務局より説明

会 長：Iについて説明を願いたい。

事務局より説明（パブコメ意見および計画の修正個所の説明）

会 長 : 内容の変更については、答申書のところで御意見をいただき、字句の修正や用語説明での追加内容があれば御意見をいただきたい。特に無ければ、次に進めさせていただき、その際に御意見をいただければと思う。

II. 答申書（案）について

事務局より説明

会 長 : 後期基本計画案および答申書案について御意見をいただきたい。意見については、答申書に付帯意見として追加するなど、事務局にお願いしたい。御意見はいかがか。

委 員 : 答申書の2、3の内容は、市民が参画することにだいぶ似ているような感じがする。財政についての項目も入れたほうが良いのではないか。

会 長 : 具体的にはどのような感じか。

委 員 : 行政としてどのようにやっていくのかを市民にも分かるように、例えば、ごみを出すにももっと資源化する等のことを入れてほしい。

委 員 : 基本計画の配布先はどこまでか。

事務局 : 成果品は概要版が500部、本編は300部。広報や伊吹山テレビを活用して周知する。

会 長 : 公式ウェブサイトでも見られる。

委 員 : パブコメの件数は、他の案件に比べて多いのか、少ないのか。

事務局 : 他の案件でも少ない。

委 員 : 周知はお願いしたい。

答申書の前文の中に「選択と集中」が入っているのは、良いことだと思う。また、若い世代のまちづくりへの参画についても、若い人の意見は必要であり、良いことだと思う。自治力が低下している中で、市が作った施策は直接、自治会においてしまっているが、その真ん中の部分を作るのは行政の役割である。答申書の5に組織体制の整備とあるのは、それぞれの施策の中で、NPO や市民活動といった形で市民に伝えていくような中間的な組織体制の整備が必要という意味だと理解している。全般を通して、答申書については我々の意見が含められていると思う。

また、パブコメで出てきたスピード感を持つということは重要だと思う。米原駅前の再開発などについては、後期の5年間で進めるのではなく、できるだけ早い段階で成果を出してほしい。

委員：公式ウェブサイトや広報を見て理解するというのもう古い。縮小版でもいいので全戸配布をした方が良く、攻めの姿勢として市内の企業にも配布できると良いと思う。企業と行政の絆、学校と行政の絆など、もっと広く積極的な連携を図っていただき、新しいまちづくりの展開となるきっかけづくりをしてほしい。行政から積極的に地域や企業にアタックしてほしい。

委員：今の話はテーマによるのではないと思う。柏原中学校の統廃合の問題でも、様々な意見が出ており、参加もされている。行政も一歩前に出ていく必要がある。

「選択・集中」という話があったが、抽象的な表現に終わっている。我々の中では、定性と定量という考えがある。今後、定量的な分析をして、優先順位を付けて、何から実施していくのか、市民の皆さんに理解してもらう必要がある。

会長：定量的にやっていくといった案が出てきた。

委員：別紙の案以外に、企業誘致などの活性化という取組がほしい。資料編に部門別計画をまとめているが、目的達成指標の一覧表がほしい。

副会長：答申案については、適切に皆さんの意見をまとめている。

なぜ、基本計画が市民の目に触れなかったのか。市民がこの基本計画を目にする機会を増やしていくには、自分の身近な問題を議論する際に、この基本計画を目にして、活用してもらうような仕組みづくりが必要である。

また、市が実施計画を立案する際には、市民目線で作成することになるが、その際に基本計画が市民の皆さんの目に触れやすい、市民が意見を言いやすい仕組みづくりを考えて、実施計画に反映していくことが必要である。基本計画について市民と情報共有を進めるに当たって、実施計画立案に及んだ基本計画の活用の仕方を検討いただきたい。

用語の説明は、市として実施している事例を括弧書きでも入れておくと分かりやすいので、検討いただきたい。

委員：何をしていくのかもっと具体的に示した方が分かりやすいと思う。

会長：今の御指摘いただいたものは実施計画に当たるので、基本計画から実施計画を作る過程で、どのように市民に分かりやすくしていくか考えていただければと思う。

委員：個別計画があるので、それと照らし合わせないと分かりにくいと思う。取組と個別

計画との調整をどのように図るかが問題である。

会 長 : その点は資料編に含まれている。事務局から補足があれば願います。

事務局 : P. 2に基本構想と基本計画と実施計画の位置付けを示している。具体的な事業を示しているのは実施計画である。目的達成指標については実施計画の中で進行管理を行っていき、指標の一覧も設けているので御理解いただきたい。

委 員 : 市民にどう理解いただくのか意見が出ているが、周知は一度やれば終わりではなく、何回も繰り返してやらないとできない。「みんなにわかる みんなのまいばらの予算」を出しているが、あれは分かりやすい。市の財政のことよりも基本計画の方をもっと周知をしていくべきである。

水源の里について、まだ川上の部分で止まっていると思う。これも市がスピードを上げて、進めていくべきである。

副会長 : 水源の里まいばら元気みらい条例については私も関心を持って取り組んできた。限界集落となっている過疎地域に対して集中的に取り組を進めているが、市全体を水源の里としているので、下流域の取組を考えた方が良い。市全体の取組としては、まだ上手くいっていないと思う。多くの市民は過疎対策と思っているのではないか。

委 員 : 水源の里というネーミングは限界集落からきているので、市外の人には水源の里を市全体と捉えて見ていないと思う。米原市はひねった名称をつけて取組を進めた方が良い。言葉とやり方を変えないと広がらないと思う。

副会長 : 上流域では地域の良さを引き出し、上手くいっているが、下流域の良さを引き出せていない。米原市全体としての良さを引き出すこと。

委 員 : 過疎というとネガティブなイメージがあるので、ポジティブなイメージにした方が良い。例えば、田舎都市はその考え方に当てはまる。

会 長 : これからの戦略が出てきているが、その他の御意見はないか。

委 員 : この水源の里条例の基本は米原市を1つにまとめることであると思うが、それにより新しい動きがもっと出てくると思う。4地域で動かすのは難しいと思うので、一度全ての地域を無くして区切り直した方が良いと思う。

委 員 : それが答申書の5に入っている内容である。私は地域とは学区単位だと思っているがこの単位での取組を進めてほしいと思う。

委員：学区とは字のことか。

委員：学区は、学校単位のことであり、その中で色々なことを協議していく場があっても良いのではないか。

委員：目的が違ってきているので、構造がちやらんぼらんになる可能性もあるかと思う。

委員：市全体から次の単位は自治会になるので、その中間の組織があると良い。

委員：今は学区を既成概念で捉えているので、違う考え方で見ていくと違う結びつきもあると思う。

副会長：なぜ、自治会単独での取組が多くなったのかを考えると、以前は自治会を越えた集まりで地域力を結集させることがあったが、現在は地域のインフラが整備されてきたので大きなエリアで議論する機会が無くなってきたのではないかと思う。

委員：学区の問題だけでなく、そこからまちのことを話し合ってはどうか。ただ、人口減少しており、集落の中で固まろうとする力はあるが、外へ出て行こうという力が弱くなっている。

副会長：その点も実施計画の中に反映していただきたい。

委員：地域福祉が必要となるが、その拠点は学区単位になると思う。

会長：何か前向きに戦略は立てていきたい。その他の御意見があればお願いしたい。

委員：答申書の1に若い世代のことがあるが、「夢がもてる」との表現を追加してはどうか。

委員：企業誘致により雇用を創出することは、若者の定住につながると思うので、是非進めていただきたい。

会長：これだけは言いたいことがあれば、遠慮なくお願いしたい。本日の意見の整理については事務局でとりまとめをお願いしたい。

4. その他

今後のスケジュールについて事務局より説明

事務局：本日の意見を踏まえて、事業に落とし込むところは、実施計画の中でしっかりとや

っていきます。いただいた意見は改めて整理し、反映して、最終案としていきたいと思いを思います。

副会長 : 実施計画は行政の仕組みでやってくれたら良いが、この基本計画を市民と共有することが大切であるという意識で作業を行ってほしい。

会 長 : 新たな手法など検討して、市民と共に歩めるような行政運営をお願いしたい。委員にとっては、まだまだ言い足りないこともあるかと思うが、充実した意見交換はできたと思う。

　　今後は、市がどのように市民とともに実施計画を作り、進めていけるのかになるが、市民目線をできるだけ取り入れていただきたい。

事務局からお礼の言葉

5. 閉会

(終了)